19990073

平成11年度厚生科学研究費補助金（特別研究事業）
総括研究報告書
課題番号　H 11-特別-030

医療機関における看護職の夜勤の実態に関する研究

主任研究者
山口桂子　愛知県立看護大学　教授

分担研究者
加藤美智子（帝京平成短期大学　助教授）
市村久美子（茨城県立医療大学　講師）

研究協力者
山崎慶子（東京女子医科大学病院　副看護部長）
宮腰由紀子（茨城県立医療大学　助教授）
久常節子（慶応大学看護学部設立準備室）

2000年3月

平成11年度厚生科学研究費補助金（特別研究事業）
総括研究報告書

医療機関における看護職の夜勤の実態に関する研究

目　　次

頁

総括研究報告　医療機関における看護職の夜勤の実態に関する研究……1
山口桂子、加藤美智子、市村久美子
山崎慶子、宮腰由紀子、久常節子

表1　ＩＣＵとその他の病棟における患者および勤務状況に関する比較……8
表2　ＩＣＵとその他の病棟における勤務状況実態と希望に関する比較……8
表3　ＩＣＵとその他の病棟における病棟状況と夜勤看護婦数の
相関係数の比較……9

資料1　調査票項目一覧（看護部長用）……10
資料2　調査票項目一覧（病棟婦長用）……10

別表　ＩＣＵとその他の病棟における単純集計……11

平成11年度厚生科学研究費補助金（特別研究事業）
総括研究報告書

医療機関における看護職の夜勤の実態に関する研究

主任研究者
山口桂子　愛知県立看護大学　教授

研究要旨

医療の安全性や看護の質向上、および専門職者である看護婦の労働条件や健康等に影響を与える夜間勤務の一般的実態を調査し、看護職員の配員が病棟の患者状況や看護必要度を反映して行なわれているかどうかを検討した。

調査結果を、病棟の特殊性に着目し、ＩＣＵなどのユニット系病棟と一般病棟に分類して比較したところ、ＩＣＵなどのユニット系病棟では、患者状況に適した看護提供に必要な勤務者数を全勤務帯で確保するために、95%が三交代勤務を採用し、一般病棟よりも常時要観察患者数等への相関が高いなど、両者間の勤務実態には明らかな相違がみられた。

今後、看護職員の限られたマンパワーを効果的に十分に発揮させるためには、勤務配置を病院全体として有効に行うことが重要で、患者重症度・看護必要度に応じた配置またはその時点における状況の変化へ柔軟な対応変更が可能な体制を検討し、きめ細かい人員配置を実施する必要があり、そのためには、病棟の患者状況や看護必要度を簡潔に確実に判定できるツールの開発が急務であることが示唆された。

分担研究者
加藤美智子（帝京平成短期大学　助教授）、市村久美子（茨城県立医療大学　講師）
研究協力者
山崎慶子（東京女子医科大学病院　副看護部長）
宮腰由紀子（茨城県立医療大学　助教授）、久常節子（慶応大学看護学部設立準備室）

A　研究目的

病院勤務の看護婦が直接の当事者となった医療過誤事件が、最近、数多く発生したことは、誠に痛ましいことである。こうした事件においては、看護婦個人に帰する人為的ミスの指摘は逃れられないものの、同時に現状の病院看護管理体制、特に看護職の勤務体制や適正配置などの見直しの必要性も指摘されるところである。

現在、病院・施設における看護職の勤務体制は様々な勤務方法が採用されているが、看護職の職務の特徴として、夜間勤務帯の

勤務を避けることはできない。

この夜間勤務は勤務者の健康等に影響を及ぼすが、夜勤回数等の実態および夜勤帯における看護婦への負担は、病棟における患者状況や看護必要度によって異なることが予想される。それを明らかにするには、病棟の状況に応じた夜勤の実態についての情報を提供する実態調査が必要である。

このような背景から、本研究の目的の第一は、医療の安全性や看護の質向上、および専門職者である看護婦の労働条件や健康等に影響を与える夜間勤務の一般的実態について、病棟の特殊性に着目しながら明らかにすることとした。

第二は、看護ケアの必要に応じより質の高い看護サービスを提供するために論議されている看護度に応じた看護職員の配員に関し、その基礎的情報の一つとなる現状の夜間勤務における看護婦配置数が病棟の看護必要度を反映して行なわれているかどうかを把握することとした。

あわせて、アメリカで行われている看護婦の24時間労働の動機付けや様々な勤務形態を聞き取り、我が国への適応の可能性を探ることとした。

B　研究方法

研究1：医療機関における看護職の夜勤の実態に関する研究

1　対象病院の概要

対象病院の選択にあたっては、国内全体の実態に近似の状況を把握する為に、全国を北海道、東北、関東、中部、近畿、四国、九州の７地区に分け、地区毎に１～２県を無作為抽出し、該当県内の全病院を調査対象とした。

2　調査対象病院での病棟数の決定と選択

調査対象象病院に対して、回答を依頼する病棟数を、病院の病床総数に応じ最大５病棟から最少１病棟と指定して依頼した。

その病棟選択にあたっては、当該施設の総婦長・看護部長に委託した。委託依頼に当たっては、病棟の看護業務量・患者重症度・看護必要度・勤務形態の違いを考慮要件として文書で示した。

3　調査項目

看護部長を回答者とした調査項目は、病院名、病院における看護婦の勤務背景、稼働率、平均在院日数、年休消化率、勤務形態別看護単位数などの８項目とした（資料１）。

病棟婦長を回答者とした調査項目は、①患者の特徴：病棟名（病床の種類）・患者重症度と看護必要度（厚生省分類による）、②勤務者の特徴：職種・人数・勤務形態の種類・一回の夜勤人数とその職種・一ヶ月間の夜勤回数・各勤務帯における勤務者構成・日勤準夜深夜勤のローテーション頻度と方法などの12項目とした（資料２）。

4　調査実施時期

平成11年10月より平成12年１月までとした。

5　配付・回収・報告

調査票送付は、施設毎に看護部責任者宛に一括して行い、施設および看護部の協力・承認を得た後、看護部責任者から病棟

婦長へ配付した。

回収も、施設毎に一括郵送回収とした。

今後、報告書作成と関係機関への配付、調査回答者等へ結果報告でフィードバック予定である。

6　データ分析

データ入力と分析には、統計プログラムSPSS10jを用いて行った。

そこで得られた結果の検討は、労務管理、看護管理の専門家を交えて行った。

分析・検討の視点としては、初めに、医療の安全性、看護の質の向上、および専門職者である看護婦の労働条件や健康等に影響を与える夜間勤務の一般的な実態について、病棟毎の特殊性に着目しながら明らかにするために、施設特性と病棟特性による看護職の夜勤体制と看護職員配置状況の相違・類似点を確認した。そして、看護ケアの必要に応じてより質の高い看護サービスを提供するための看護度に応じた看護職員の配員について、結果から現状の夜勤帯の看護婦配置数が病棟の看護必要度を反映して行われているかどうかについて検討を加えた。

研究２：アメリカ西海岸で交代制勤務をしている看護婦からの聞き取り調査

1　調査方法

サンフランシスコ・ロスアンジェルスの近郊の病院で働いている看護婦2名と看護管理者１名を調査対象者として、病棟で働く看護婦の24時間の交代制勤務について聞き取り調査を行った。

調査内容としては、看護婦には労働の現状特に病棟の状況に応じた夜勤の実態について、看護管理者にはシフトワークを行っている看護婦に対し果たしている管理者の役割について、とした。

2　分析方法

面接聞取り調査内容について、以下の２点に集約し分析、検討した。

（1）病院で働く看護婦と交代制勤務の現状

（2）夜勤・交代制勤務の適応に関する諸側面

（倫理面への配慮）

研究にあたっては、調査対象に対し調査に関する説明を書類で十分に行うとともに、回収したデータの取り扱いには細心の注意を払った。また、データは、回答者のものであり、現場に活用するための調査であるという観点から、調査結果を調査回答者および現場へフィードバックを行う。

C　結果

研究1：医療機関における看護職の夜勤の実態に関する研究

1　調査対象

研究方法に示した方法によって得られた調査対象病院は、13都道府県下の3,965病院となった。この全病院に調査票を郵送した。

その結果、1,236病院、4,112病棟から回答が得られた（回答率31.2%）。

2　回答した病院・病棟の特徴

回答が得られた病院の特徴は、総病床数

平均235.2床、病棟病床数　平均49.6床、稼働率　平均85.6%、であった。

病棟の特徴の一つである勤務者構成では、平均　看護婦数18人、補助者3人、クラーク0.3人であった。

病棟種類別では、表１に示すように、一般病棟　4020病棟(97.8%)、ＩＣＵなどのユニット系病棟　92施設(2.2%)であった。

病棟種類別の病床数と調査時の入院患者数・常時要観察者数（厚生省分類による）・看護職員数では、ＩＣＵなどのユニット系病棟と一般病棟との間に、著しい相違が統計上認められた。即ち、ＩＣＵなどのユニット系病棟は一般病棟に比べて、①病床数・入院患者数は少ないが常時要観察者数が多い、②看護婦数が多く准看護婦・看護補助者・介助職員は少ない、という状況であった。

３　夜勤勤務形態と夜勤勤務者数

夜勤勤務形態では、８時間三交代制を採用している施設が52.3%と最も多く、ついで8・16時間二交代制の34.2%、変則三交代制の10.0%の順であった。なお、ＩＣＵなどのユニット系では、95%以上が８時間三交代制を採用しており、一般病棟よりも有意に高率であったが、一方で8・16時間二交代制の採用は一般病棟よりも有意に低率であった（表２）。

１ヶ月の夜勤回数は、８時間三交代制を採用している施設の内で、一般病棟では準夜勤・深夜勤各４～６回であったのに対し、ＩＣＵなどのユニット系では各々6回以上であった。また、8・16時間二交代制を採用している施設でもほぼ４～６回であった。

１夜勤帯の勤務者数は平均２～４人であったが、ＩＣＵなどのユニット系では各勤務帯ともほとんど同数の勤務者数を配置しており（表１）、一般病棟より有意に多い実態が確認できた（表１）。但し、勤務時間間隔は一般病棟よりも有意に短時間であった（表１）。

４　夜勤看護婦数と各指標との関連性

表３には、病棟種類別に交代制勤務毎の夜勤看護婦数が、様々な病棟の特徴を示す指標と、どのような関連性があるかを、相関係数で示した。

ＩＣＵなどのユニット系における夜勤の看護婦数は、病床数・入院患者数・正規職員看護婦数・常時観察が必要な人の数・常に寝たままの人の数と高い相関を有していた。正規職員看護婦数・常時観察が必要な人の数・常に寝たままの人の数と高い相関の傾向は、三交代制を採用している施設よりも二交代制の施設においてより強く見られた。一方、一般病棟では夜勤帯の勤務者数と高い相関が見られたのは正規職員である看護婦数のみであり、この傾向は二交代・三交代とも差異はみられなかった。

更に、病棟配置の正規職員看護婦１人当たりが受け持つ病床数に占める常時観察が必要な人の数の百分率を求めたところ、表３の#に示したように、ＩＣＵなどのユニット系が一般病棟より有意に高い数値を得たが、同様の計算式で求めた常にねたままの人の数においては有意な差は認め難かった。

研究２：アメリカの西海岸で交代制勤務をしている看護婦からの聞き取り調査

面接による聞き取り調査の結果、以下の

ことが明らかになった。

1　病院で働く看護婦と交代制勤務の現状

①病院で働く職員の31.3%が何らかのシフトワークについているといわれているが、そのシフトシステムは施設の状況により様々である。

②毎日のスケジュールについては、ユニットマネージャーが入院患者の病状などの状況により必要看護婦数を割り出し、勤務帯ごとの調整をこまめに行っている。

③働く個人がそれぞれの理由でシフトシステムを選択できる余地が十分にある。

2　夜勤・交代制勤務の適応に関する諸側面

①シフトワークへの参加とシフトの選択が、自己決定される点がまずは働きやすさにつながっていると考えられる。

②管理者は環境の整備の他、物的・精神的・時間的調整を積極的にされていることが伺われた。

D　考察

1　調査背景について

1999 年１月に横浜市立大学附属病院で起こった手術患者の取り違え事件や、２月に都立広尾病院で起こった消毒薬を患者に静脈注射した事件（結果そして患者が死亡した）など、看護婦が直接の当事者となった医療過誤事件が、最近、数多く発生したことは、誠に痛ましいことであった。

こうした事件発生の背景として、前者では、１人の看護婦が２人の手術患者を同時に手術室に搬送したことが、原因の一つとして考えられた。また、後者では、実施時間帯と異なる勤務帯である夜勤帯の看護婦がヘパリン生理食塩水をシリンジに調整した結果、それを実施勤務帯である日勤帯の看護婦が正しく管注しなかったものであった。

これらの事件においては、看護婦個人に帰する人為的ミスの指摘は逃れられないのの、同時に現状の看護管理体制、特に看護職の勤務体制や適正配置などの見直しの必要性も指摘されるところであった。

看護婦の人員配置などは、雇用側の施設運営の基盤となる診療報酬体系の影響を受けざるを得ない。従って、看護職の人員や適正配置の見直しを検討するための資料は、同時に、関連する政策立案に資するデータと成り得ることが要求されよう。

現在、病院・施設における看護職の勤務体制は一様ではなく、様々な勤務方法が採用されているが、看護職の職務の特徴として、夜間勤務帯の勤務を避けることはできない。

この夜間勤務は勤務者の健康等に影響を及ぼすが、夜勤回数等の実態および夜勤帯における看護婦への負担は、病棟毎に異なることが予想される。

そこで、実態調査から、病棟の状況に応じた夜勤の実態についての貴重な情報提供が必要である。

実態把握方法には様々な切り口があるが、これまでのこうした報告には、日本看護協会や日本医療労働協同組合連合会等の提起的調査結果が散見する状況にすぎない。それらの調査で懸念される限界として考えられることは、調査対象が各々の所属会員のみであり、調査主体の特殊性も加わって調

査結果を必ずしも一般化できないことである。

以上の状況を鑑み、看護職の適正配置の再検討へ資するために、医療の安全性や看護の質向上、および専門職者である看護婦の労働条件や健康等に影響を与える看護職の夜勤体制と看護職員配置状況の実態を把握し、今後の夜勤体制のありかたを検討することを目的に本調査をおこなう必要性があったと考える。

2　回答・分析・検討方法について

調査対象の選定で、全国を７地域に分け、結果として13都道府県を抽出したが、調査結果からは、ほぼ全国の平均的特徴を把握できたと考えられることから、妥当であったと判断した。また、回収率は、施設毎に纏めて回収した割には低率であった。しかし、郵送回収という方法を考慮すれば、一般的な回収率と思われる。

調査結果の分析では、病棟の特殊性に着目して病棟種類別で分析したが、当初予想したように、病棟種類別で明確な相違が見られたことから、妥当であったと考えられる。また、交代制勤務別でも分析したが、同様に明確な相違を示したことから、適切であったと判断できる。

しかしながら、看護ケアの必要に応じより質の高い看護サービスを提供するために論議されている看護度に応じた看護職員の配員に関し、その基礎的情報の一つとなる現状の夜間勤務における必要看護度を反映して行なわれているかどうかを検討した際に、現行の患者重症度・看護必要度の分類では、病棟における患者重症の状況や看護が必要な状態を、そのままの数値で直接的に表現し難いように思われた。

そこで、表３で用いた計算式を創造し、数値の加工を行なったところ、看護婦数などの実態を反映しやすい数値が得られるようになった。

今後は、病棟管理責任者や看護管理者が利用しやすいように、より簡便に病棟の特徴をより正確に示すツールを開発する必要性があると考える。

3　病棟種類別夜勤看護婦の状況について

表１・２・３に示したように、ＩＣＵなどのユニット系病棟では、一般病棟に比べて患者状況に適した看護提供に必要な勤務者数を、全勤務帯で確保する努力がみられた。一方、一般病棟の夜間勤務者数には必ずしも患者状況や看護必要度が充分に反映していない、または反映し難い状況がみられた。

このことは、ＩＣＵなどのユニット系病棟では、重症度が高い患者の看護を行っていることを証明していると考えられる。

その看護を実行する上では、ＩＣＵなどのユニット系病棟が一般病棟よりも三交代勤務が多いことから、看護濃度が高いことが伺える。反面、勤務時間間隔が一般病棟より短いことは、看護婦の疲労回復が充分なされているか疑問を感じざるを得ない（この点に関しては、今回、調査票の量的制限から調査項目に含めなかったため、明らかにできず、今後の課題と考えている）。

また、一般病棟では、現行の看護婦数で十分な看護提供がなされているか否かは、この調査から把握し難い。それは、前項の２で考察したように、現行の患者重症度・看護必要度では本来の患者や看護必要状況

を反映し難いために、客観的数値として確認し難いからである。このことからも、前項で指摘したツールの開発が希まれる。

4　アメリカの調査から

アメリカの調査からは、看護管理者による積極的な環境調整や、ユニットマネージャーによるこまめな勤務帯ごとの調整がなされていることと、勤務者個人による勤務シフト選択の自己決定が、夜勤や交代制勤務への適応に有効に作用していることが把握できた。

これらのことは、日本における病院全体の看護職員の限られたマンパワーを効果的に十分に発揮させる方策を考える上で、いくつかの示唆を与えるものと考える。

以上のことから、病院全体の看護職員の限られたマンパワーを効果的に十分に発揮させるためには、次の２点が考えられよう。

一つは、病院全体の看護職員の勤務配置を有効に行う看護チーム編成は、病棟一律よりも、例えばＰＰＣ方式のような患者重症度・看護必要度に応じた配置またはその時点における状況の変化へ柔軟な対応変更が可能な体制を検討し、きめ細かい人員配置を実施する必要があることであろう。

もう一つは、それを実行するためには、現行の患者重症度・看護度算定方式よりも、実態を反映し且つ簡潔な算定方式の開発が急務であることであろう。

E　結論

我が国における夜間勤務の一般的実態を把握するために、病院看護部管理者および病棟看護管理者を対象に、アンケート調査を行った。13都道府県下3965病院に調査票を郵送し、1236病院の4112病棟から回答を得た。ＩＣＵなどユニット系病棟と一般病棟に分類して結果を分析したところ、両者間に明確な相違が確認できた。

結果からは、ＩＣＵ系病棟では患者状況に適した看護提供に必要な勤務者数を、全勤務帯で確保する努力がみられたが、一般病棟の夜間勤務者数には必ずしも患者状況や看護必要度が充分に反映していない、または反映し難い状況がみられた。

あわせて、アメリカにおけるシフトワークの概要を聞き取り調査し、看護職員の効率的な勤務配置へ活用することができる２，３の結果を得た。

以上を踏まえ、今後の対策として、次の２点が考えられる：

① 看護職員の限られたマンパワーを効果的に十分に発揮させるためには、勤務配置を病院全体として有効に行うことが重要で、その看護チーム編成では、病棟一律よりも、例えばＰＰＣ方式のような患者重症度・看護必要度に応じた配置またはその時点における状況の変化へ柔軟な対応変更が可能な体制を検討し、きめ細かい人員配置を実施する必要がある

② ①を達成するためには、現行の患者重症度・看護度算定方式よりも、実態を反映し且つ簡潔な算定方式の開発が急務である

謝辞

本調査にあたり、ご協力いただいた関係病院の総婦長・看護部長様ならびに婦長・主任様に深く感謝いたします。

表 1　ICUとその他の病棟における患者および勤務状況に関する比較

項目	ICU					その他の病棟				相関係数　p
	総数	平均	(SE)	SD	最大値	総数	平均	(SE)	±SD	
病棟数(棟)	92					4020				
病床数(床)	1566	17.21	1.17	11.21	50	202099	50.31	0.2	12.52	−0.138 ****
入院患者数(人)	1233	13.55	1.08	10.33	48	177122	44.07	0.2	12.65	−0.336 ****
常時要観察者数(人)	674	7.41	0.56	5.38	34	16165	4.1	0.1	10.81	0.077 ****
常時臥床者数(人)	866	9.52	0.76	7.25	34	36032	9.01	0.15	9.37	0.11
正規職員看護婦(人)	2176	23.65	1.45	13.91	78	52146	12.97	0.12	7.68	0.197 ****
正規職員准看護婦(人)	97	1.05	0.25	2.42	11	17894	4.45	0.006	3.74	−0.134 ****
正規職員業務補助者(人	101	1.1	0.15	1.41	7	12740	3.17	0.006	3.83	−0.08 ****
正規職員介助職員(人)	11	0.12	0.12	0.85	8	1148	0.29	0.001	0.67	−0.044 ***
三交代制準夜勤務者(人	298	4.08	0.24	2.05	12	6226	2.53	0.002	1.07	0.228 ****
三交代制深夜勤務者(人	293	4.01	0.24	2.08	12	5953	2.43	0.002	1.03	0.239 ****
勤務時間間隔(時間)	300	3.3	0.32	3.1	9	18092	4.54	0.006	3.63	−0.051 ***

****:p<0.001, ***:p<0.005

表 2　ICUとその他の病棟における勤務状況実態と希望に関する比較

項目	ICU(棟)	その他の病棟(棟)	相関係数　p
8時間三交代制を実施	63	2086	0.049 ***
変則三交代制を実施	10	400	0.005
12時間二交代制を実施	2	48	0.013
8・16時間二交代制実施	14	1394	−0.061 ****
8時間三交代制を希望	54	1800	0.043 **
変則三交代制を希望	12	431	0.012
12時間二交代制を希望	8	126	0.047 ***
8・16時間二交代制希望	9	1266	−0.07 ****

****:p<0.001, ***:p<0.005, **:p<0.01,

表3 ICUとその他の病棟における病棟状況と夜勤看護婦数の相関係数の比較

	ICU			その他の病棟		
夜勤勤務帯 対象病棟数(n)	三交代準夜 66	三交代深夜 66	二交代 12	三交代準夜 1799	三交代深夜 1789	二交代 1032
病床数	0.503 **	0.449 **	0.278	0.101 **	0.098 **	0.078 *
入院患者数	0.459 **	0.442 **	0.438	0.142 **	0.129 **	0.000
正規職員看護婦数	0.503 **	0.449 **	0.971 **	0.473 **	0.437 **	0.632 **
常時観察が必要な人の数	0.438 **	0.423 **	0.912 **	0.053 *	0.057 **	0.054
常に寝たままの人の数	0.504 **	0.469 **	0.781 **	0.080 **	0.089 **	−0.070 *
常時観察が必要な人の数／病床数	−0.061	−0.076	0.400	0.048 *	0.056 *	0.030
常に寝たままの人の数／病床数	0.085	0.085	0.005	0.070 **	0.080 **	−0.080 *
#看護婦1人当りの常時観察が必要な人の割合	−0.364 **	−0.369 **	−0.277	−0.095 **	−0.080 **	−0.143 **
##看護婦1人当りの常時寝たままの人の割合	−0.122	−0.132	−0.447	−0.151 **	−0.126 **	−0.231 **

(常時観察が必要な人の数／病床数／正規職員看護婦数)×1000
(常に寝たままの人の数／病床数／正規職員看護婦数)×1000

上段 相関係数値
下段 * $p<0.05$ ** $p<0.01$

資料1　調査票項目一覧（看護部長用）

1 病床稼働率
2 平均在院日数
3 看護職員数
4 看護職員の年次有給休暇消化率
5 看護職員の年間退職者数
6 週所定労働時間
7 病院の看護単位総数
8 看護勤務体制別看護単位数

資料2　調査票項目一覧（病棟婦長用）

1 病棟名
2 診療科名
3 病床数
4 入院患者数
5 看護観察度別患者数
6 生活行動状態別患者数
7 看護要員数
8 勤務形態
9 夜勤帯勤務者数（看護婦・補助者別）
10 交代制勤務の原則的勤務継続性
11 交代制勤務の原則的ローテーション型
12 交代制勤務の最短勤務間隔時間
13 交代制勤務の最短勤務間隔時間8時間の平均1か月内勤務回数
14 1か月夜勤回数別看護勤務者数
15 希望勤務体制

別表　ICUとその他の病棟における単純集計

別表1　調査票回収状況

発送先地域	発送病院数	回収病院数	回収率	回収病棟数	内 ICU		内 他病棟	
					数	%	数	%
北海道	648	208	32.1%	671	15	16.3	656	16.3
東北	149	64	43.0%	200	4	4.7	196	4.9
関東[註1]	1060	311	29.3%	1064	31	33.7	1033	25.7
中部[註2]	297	104	35.0%	352	3	3.3	349	8.7
近畿[註3]	740	225	30.4%	769	19	20.7	750	18.7
四国	265	85	32.1%	236	10	10.9	226	6.3
九州[註4]	806	239	29.7%	820	10	10.9	810	20.1
計	3965	1236	平均33.1%	4112	92	100.0	4020	100.0

註1　関東＝東京を含む
註2　中部＝上信越北陸を含む
註3　近畿＝中国を含む
註4　九州＝沖縄を含む

別表2　　ICUとその他の病棟の患者および勤務者状況

	ICU		その他の病棟	
	総数	平均	総数	平均
病棟数(棟)	92		4020	
病床数(床)	1566	17.21	2 02099	50.31
常時要観察者数(人)	674	7.41	16165	4.10
常時臥床者数(人)	866	9.52	36032	9.01
正規職員看護婦数(人)	2176	23.65	52146	12.97
正規職員准看護婦数(人)	97	1.05	17894	4.45
正規職員補助者数(人)	101	1.10	12740	3.17
正規職員介護職数(人)	11	0.12	1148	2.53
3交代・準夜勤務者数(人)	298	4.08	6226	2.43
3交代・深夜勤務者数(人)	293	4.01	5953	4.54

別表3　ICUとその他の病棟の交代制勤務実施形態

	ICU		その他の病棟	
	病棟数	%	病棟数	%
総数	92	100.0	4020	100.0
8時間3交代制実施	63	68.5	2086	51.9
変則3交代制実施	10	10.9	400	10.0
12時間2交代制実施	2	2.2	48	1.2
8・16時間2交代制実施	14	15.2	1394	34.7
その他	3	3.2	92	2.2

別表4　ICUとその他の病棟の3交代制勤務実施形態
勤務帯の継続期間

	ICU		その他の病棟	
	棟	%	棟	%
3交代制勤務採用病棟数	73	100.0	2486	100.0
毎日異なる勤務帯が続く	45	61.7	1531	61.6
数日続けて同じ勤務帯が続く	22	30.1	515	20.7
1週間単位で全時間帯を行なう	3	4.1	95	3.8
1週間単位で同じ時間帯が続く	0	0.0	6	0.2
1か月単位で同じ勤務帯が続く	0	0.0	1	0.1
固定勤務で働く	1	1.4	37	1.5
その他	2	2.7	301	12.1

別表5　ICUとその他の病棟の看護婦の3交代制勤務における勤務ローテーションの方向

そ

	ICU		その他の病棟	
	棟	%	棟	%
3交代制勤務採用病棟数	73	100.0	2486	100.0
時計方向	3	4.1	96	3.9
どちらかというと時計方向	5	6.8	88	3.5
逆時計方向	17	23.3	355	14.3
どちらかというと逆時計方向	22	30.1	700	28.2
規定は特に無い	24	32.9	995	40.0
その他	2	2.7	252	10.1

別表6　ICUとその他の病棟の看護婦の3交代勤務における最短勤務時間間隔

	ICU		その他の病棟	
	棟	%	棟	%
3交代制勤務採用病棟数	73	100.0	2486	100.0
8時間以内	41	56.2	1365	54.9
9～11時間	5	6.8	286	11.5
12～15時間	13	17.8	320	12.9
16時間以上	8	11.0	241	9.7
不明	6	8.2	274	11.0

別表7　ICUとその他の病棟の看護婦の8時間3交代制実施における勤務間隔8時間以内の看護婦平均1か月回数

	ICU		その他の病棟	
	棟	%	棟	%
8時間3交代制勤務採用病棟数	63	100.0	2086	100.0
0回	14	22.2	436	20.9
1～2回	4	6.3	218	10.5
3～4回	21	33.4	837	40.1
5回	9	14.3	255	12.2
6回以上	10	15.9	141	6.8
不明	5	7.9	199	9.5